

Information

営業所移転のお知らせ

当協会、京都支店の北京都
営業所が平成29年11月2日
(木)に下記の住所へ移転い
たしました。



移転した北京都営業所外観

〒620-0866
福知山市前田新町151番地
TEL 0773-20-2552
FAX 0773-20-2562

ご意見板

ご意見
募集中!



本誌「電気と保安」のご意見
やご感想を承ります。
ご意見をいただいた方々の中
から、抽選で20名さまに
図書カード(1,000円分)を
進呈いたします。

□応募方法

協会ホームページ(<http://www.ksdh.or.jp>)から受付いたします。
広報誌「電気と保安」ページに掲載しています。

ハガキ等で応募希望の場合は、氏名・住所を明記のうえ、
下記の宛先にお送りください。

〒530-6111 大阪市北区中之島3-3-23 中之島ダイビル11階
一般財団法人 関西電気保安協会 広報部 宛

□締切日 平成30年2月28日(水)

※当選者は、図書カードの発送をもって発表にかえさせていただきます。

2017年9・10月号 ホアンくんクイズの結果は、応募総数329件 正解は「冷蔵庫」でした。



この冊子は環境に
配慮して印刷しています

電気と保安



2018
1・2月号
No.483

お客さま紹介 ▶P.3

厨房部品のOEMと
自社ブランド展開で、快適ライフを提案
[株式会社 伸晃]

保安マン

エピソード ▶P.11
宿直時の対応で原因が判明した
電気事故以外のトラブル事例

保安レポ

日常で使う電気製品からの
火災について考える ▶P.7
高濃度PCB含有電気工作物の処分期限は
平成33年3月31日(近畿エリア)です! ▶P.9

エキスパート in KANSAI

▶P.13
1300年前の建築技術を次世代へ
継承する寺社建築のプロ集団
[株式会社 瀧川寺社建築]

関西深発見

▶P.15
奈良[十津川村]



電気と保安 2018年1・2月号(通巻第483号)

平成30年1月1日発行

発行/一般財団法人 関西電気保安協会

〒5306111 大阪市北区中之島3-3-23 中之島ダイビル TEL 06-75507226 FAX 06-75507226

エキスパート in KANSAI

ひとつの技を磨き上げた 誇り高きエキスパートをご紹介します

次世代へ継承する寺社建築のプロ集団

1300年前の建築技術を

古都・奈良を代表する世界文化遺産、興福寺。その伽藍の中心となる中金堂が、2018年10月、約300年ぶりに再建されます。創建当初の姿の復原に挑んでいるのが奈良県・桜井市の宮大工集団、株式会社瀧川寺社建築です。

興福寺 中金堂の再建 世紀の大事業が 今年秋に完成

平城京跡の朱雀門、第一次大極殿正殿の復原をはじめ、法隆寺、長谷寺など数多くの国宝・重要文化財級の木造建築の修復を手がけてきた瀧川寺社建築。現在取り組んでいる興福寺中金堂

は、36.6m×23.0mの柱間に巨大なケヤキの柱が36本も立ち並びます。柱は最大のもので1本約7トン。これだけの木を揃えるだけで10年以上もかかったそうで、「これほど大規模な木造建築は、今世紀はもうないだろう」と言われている、まさに世紀の大事業です。

日本の寺社や古建築は、飛鳥時代から連続と受け継がれてきた工法で建てられています。

木の接合部分に複雑な切り込みを施し、釘を使わずに組み上げる木組みとしかねという特殊なL字型定規一本で正確な原寸図面を描き上げる規矩術。表面の仕上げには槍鉋やじがなや手斧てうきなど古来の道具も使います。歴史ある建造物とともに、こうした伝統技法を守り継承していくことも宮大工の重要な役割です。

宮大工たちに 連綿と受け継がれる 伝統技法が文化財の 未来を照らす

実際に建てたときの誤差を無くすために、寺社建築では、ベニヤ板に実物大の原寸図を描き、型板を作成します。

興福寺中金堂の立柱式。一本一本手作業で磨き上げられた巨大な柱が立ち並びます。



長谷寺本願院の棟上式。



国宝修復から 賽銭箱、下駄箱まで 木造のものなら、 どんなものでも 何とかする!

今や全国から仕事の依頼が寄せられる瀧川寺社建築。その内容は、4代目の瀧川伸社長が「うちは、木で造られたものなら、どんなものでも何とかする「専門医院」

と言う通り、国宝級の仕事から、「賽銭箱を作ってほしい」「靴脱ぎ場の下駄箱を」といったものまで多岐にわたります。一見、宮大工の仕事ではないような小さな仕事にも真摯に取り組むことが、若い職人の技術の研鑽とプロ意識を鍛えることにつながっているといえます。

歴史的木造建築は通常、数十年ごとに部分的な修理を、200～300年を目安に大規模な解体修理を行います。それだけでは不十分。建物の命を延ばすには、普段のメンテナンスが大変重要です。こまめに現地へ見に行くことで小さな異変にも気づき、施主側も何でも気軽に相談できます。さらに一級建築士でもある社長が設計部門の統括とトップ営業を担っているため、小規模な工事であればその場で工法やスケジュールなどの段取りを組むことができ、工期短縮やコスト削減にもつながります。こうした仕事への取り組み姿勢とネットワークの軽さが、同社への厚い信頼を支えています。



100年近い歴史のある神輿の修繕に取りかかる、ベテランの宮大工。

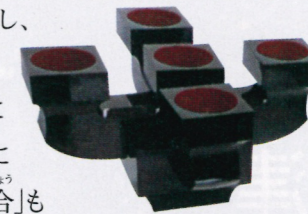
小さな賽銭箱にも伝統の木組みの技術が生かされています。



長谷寺本堂(国宝)外舞台の解体修理。365年間舞台を支えてきた柱の一部を取り替えました。

伝統を守り伝える宮大工の世界ですが、「不易流行」を座右の銘とする瀧川社長は、「ものづくりには代々受け継ぐ技と、時代に即した新技術の両方が必要」と言います。例えば、寸法は古来の規矩術で計算しますが、緻密な構造計算には現代の最新技術を取り入れます。古代からの掘立柱構造を守るために、地面に埋め込む木柱が腐らないようステンレスで保護する工法を考案し、特許を取得しました。

また、落成時に施主様にプレゼントする、斬新なデザインに洒落たネーミングの「斗榑ますますはんじょう五合」も好評です。



瀧川社長が考案した「斗榑五合」(非売品)

こうした新しい

アイデアを生み出し、実現するチャレンジ精神が、1300年を超える技術と伝統を風化させることなく、未来につないでいく原動力となっています。

「不易流行」 の精神で新たな 取り組みに果敢に チャレンジ



瀧川 伸社長からのメッセージ

宮大工の仕事は、次の数百年後の修繕までを考えて最善を尽くさなければなりません。そのために、無理をせず身の丈に合った規模で、一件一件の仕事を大切に、後世に胸を張れるような良い仕事を、今後も楽しみながら手がけていきたいと思っています。

株式会社 瀧川寺社建築

本社 〒633-0005 奈良県桜井市忍阪1278番地 設計部・施工部 〒633-0047 奈良県桜井市橋本463番地
TEL.0744-43-1383(代表) メールアドレス takigawa-jisha@tiara.ocn.ne.jp